曲　目　解　説

さて，曲目解説です。といっても，我が西高ＯＢオーケストラは，３日練習して即本番という，いい加減な団体ですので，昔やった曲を記憶をたぐりながらやらせてもらっている訳です。従って，ワンパターンとののしられようが，一定の曲しかできないともいえます。今回はその中から，みんなゲップが出るほど演奏したフィンランディアと，わりと全員が経験している運命を選んでみました。

×　　×　　×　　×　　×

シベリウス作曲交響詩フィンランディア……おそらく全てのＯＢが現役時代一度はやったことがある曲です，というか，当時（10年位前までは）は，これしかできなかったという事になりますが，それにしてはこの曲，そんな簡単な曲とは思えないのは私だけでしょうか。

ありきたりの解説なんぞする気はないのですが，曲頭から楽譜をみると，まず不安定で難しそうなブラスの部分，つづいて天国的（であればいいなあといつも思う）木管の和音，そして変ト長調という聞いたこともないような調子の弦楽合奏という３つのコラールが終わったら，やたら元気のいいテュッティがはじまります。やっと変イ長調に安定したと安心するのも束の間，弦はやたら細かい３連符をひかされて，次々と脱落していき，最後に残るのは超名人と場数を踏んだつじつま合わせのプロとなるでしょう。

そして，木管の有名な旋律となりますが，その前のインターバルが７小節という奇数の変な小節数なのは，木管のプレイヤーに出をまちがえさせようというシベリウスの陰謀にちがいありません。あとはとくに取りたててめずらしい所もなく，ウワッと盛りあがって終ります。ブラスの多少のミスには目をつぶって下さい。この手の曲を，ブラスの人間はストレスの解消の為の曲として考えている事が多いのですから，それにしても，こうしてみるとやはり到底簡単とはいえないのに，なんでこの曲ばかりやっていたのでしょうか。永遠の謎ですな，これは。

×　　×　　×　　×　　×

続きまして，これもベリー・スペシャル・ワン・パターン（略してV.S.O.Pといいます）「運命」でございます。私が現役の高校２年生の時，初めてやった曲です。当時オーボエが１本しかなかったので，先輩の音大生に手伝ってもらってやったのですが，それこそ誰あろう，指揮者の中田昌樹氏でした。彼は実は，オーボエ奏者だったのです。

運命というと誰でも知っているので，見所だけを簡単に。第一楽章は，何もいう事はありません。ひたすら例の４つの音の連続です。たまにでてくるホルンの呼び声が音をはずさないかとか，あとの方にでてくるオーボエのカデンツァの所で息が足りるかという所で，奏者のひきつった顔をお楽しみ下さい。第二楽章はチェロのノーブルな旋律を楽しんで下さい。３回出てきますが，その度に音符が細かくなり，チェリスト達の顔もこわばっていきます。その差をみながらニヤニヤするのも一興です。第三楽章は，一番つまらなくて一番難しい所です。しょっちゅう曲が中断しますが，まちがいではありません。せいぜい後半の静かな所で，一人だけ緊張してリズムをきざむ，ティンパニ奏者にご注目下さい。四楽章は，これにひきつづき，休みなしではじまります。やっとトロンボーンとピッコロの出番です。尚，トロンボーン奏者は，ここまでずっと休みなので，必ず寝ています。ひまな方は，かれらが何回舟をこいだかを数えているのもいいでしょう。所でこの楽章には，本当はコントラファゴットが入っているのですが，今回はそれを何とチューバでやっています。（ベートーヴェンさんごめんなさい）彼の華麗なテクニックをご覧下さい。その他特に見所はありませんが，曲の最後はベートーヴェンらしく，しつこく和音のくり返しがあります。たまの休みの時にとび出る弦奏者がありますのでご期待下さい。

それでは，みなさんごゆっくりおつき合い下さい。演奏会は見るものです。　　（Oboe　S．M記）